

KIT虎ノ門大学院 学習支援計画書(シラバス)

科目名		科目コード	単位数	開講期	講義形式
システムシンキング要論		Z 162	1 単位	3 学期	ハイフレックス
Essentials of System Thinking					
科目分野		課程領域			
戦略思考・コンサルティング		イノベーションマネジメント共通科目			
担当教員名	メールアドレス	連絡方法 / オフィスアワー			
上野善信 松木知徳	-	メールアポイントにて随時			

関連している科目(履修推奨科目)

システムシンキング特論

授業の概要と到達目標

授業の主題と概要

ロジカルシンキングは、複雑な問題を網羅的に(MECEに)分析し、因果関係を整理する手法として有用である。しかし、実社会において様々な要因が相互に関連し、その影響が表出するまでにタイムラグを生じる場合が多く、目先の問題に対する「対症療法」に陥ってしまうケースがある。

システムシンキングは、要因同士の相互関係や、タイムラグを伴う影響関係をも含め、複雑な問題を構造化することで、問題の分析と「原因療法」を目指す手法である。このシステムシンキングの手法を習得することで、事象の構造を俯瞰的かつ動的に捉え、ビジネスに限らず様々なステークホルダーへの説明力や施策等の効果を予測する力を強化するのに有効である。

本講義では、システムシンキングの事前知識がない受講者を対象に、机上で行う(コンピュータ・シミュレーションを伴わない)分析手法を一通り習得し、各自選定した課題を構造化し可視化することを目指す。

到達(修得)目標

机上で行う(コンピュータ・シミュレーションを伴わない)分析手法を一通り習得することを目指す。

受講対象者

ビジネス、日常生活上の問題解決を対処療法でなく、構造の見直しから検討する力をつけたいひと

履修上の注意事項やアドバイス

事前に履修しておくべき科目はとくにありません。

※ 欠席が、2コマ(90分=1コマ)を超える場合は、単位修得にも影響する。欠席の際は、事前連絡を徹底すること。

※ 担当する教員は実務家教員とする。

※ 授業にて配布する資料等教材や講義収録映像・音声の無断転用・転載を禁じます。

コンピテンシ修得目標

知識領域 (Y軸)		ヒューマンパワー (Z軸)		思考プロセス (X軸)	
Y1: 基盤法令・テクノロジー	○	Z1: 問題発見力	○	X1: 企画	
Y2: 応用法令・実務・テクノロジー		Z2: 独創力		X2: 構想	
Y3: グローバル法令・実務		Z3: 問題解決力	○	X3: 調査・分析	○
Y4: マネジメント		Z4: プレゼンテーション力		X4: 設計・開発	
Y5: 戦略立案		Z5: 変革推進力		X5: 変革	○
Y6: 標準化		Z6: コミュニケーション力		X6: 導入・運用	
		Z7: リーダーシップ力		X7: 評価・検証	
		Z8: ネゴシエーション力		X8: リーガルマインド	
		Z9: オーナーシップ力		X9: ライフサイクル	

プラクティカム

イベント / ケース	教育技法	マテリアル / ツール
1		

評価の方法

(総合評価項目と割合)	評価の要点
出席・受講態度	10%
クラスでの発言	20%
演習/宿題の提出	30%
期末プレゼンテーション	40%
合計	100%

毎回、事務室より出席簿を準備する。
クラス貢献では、積極的な発言内容を評価対象とする。
演習/宿題/プレゼンテーションはそれぞれ重要な評価対象となるので、期日厳守で提出すること。

テキスト・参考図書など		備考
※ 追加する場合を含め、一部変更となる場合もございますので予めご了承ください		
テキスト (購入が必要)	湊宣明、[実践]システム・シンキング、講談社	
参考図書 (購入は任意・講師推奨)	西村行功、システムシンキング入門、日経文庫 ピーター・M・センゲ、学習する組織、英治出版	
参考URL		
適宜紹介予定		

コマ	学習内容	事前準備・課題	担当者	時間
1.2	<ul style="list-style-type: none"> ロジカルシンキングとシステムシンキング:人を責めない問題解決アプローチ モデリングの考えと事例 ステークホルダーバリューネットワーク図 重要な変数(要素)の抽出 		上野、松木	180分
	イベント	・演習		
3.4	<ul style="list-style-type: none"> システムダイナミクス 因果ループ図 ゴールとコントロール、情報フィードバック 問題への適応資源問題、堤防問題、道路問題、ゴミ問題、飲酒問題 ケーススタディ 	事前準備 バリューネットワーク図の作成	上野、松木	180分
	イベント	・演習		
5.6	<ul style="list-style-type: none"> 3つのポイント:構造、遅れ、フィードバック システムの振る舞い:指数的成長、目的追求、振動、S字型成長、振動を伴う成長、成長と崩壊 ケーススタディ 	事前準備 SDで検討したいテーマの検討	上野、松木	180分
	イベント	・プレゼンテーション		
7.8	<ul style="list-style-type: none"> 課題の整理と発表 	各自選定した問題を因果ループ図を用いて構造化し、目的達成(問題解決)に有効な手段とその際に想定される弊害を整理し発表する。	上野、松木	180分
	イベント	・最終プレゼンテーション		

2026.05

- ※ 講義日程は、学事ポータルの講義日程表をご参照ください。
 ※ 学習内容やスケジュールは、状況に応じて一部変更・改善が生じる場合があります。
 ※ 講義収録は、特別講師を招く場合など、内容によっては収録できない場合があります。